

別海・上春別中2年生と新聞づくり

新聞づくりは「アドバイスを下さい」。そんな依頼が、別海町上春別中2年生から「どどん」と編集班に届いた。同校の2年生は6人、全校でも20人という小規模校ならではの強い絆が自慢の生徒たちに、チームワークを生かした新聞づくりに取り組んでもらった。(佐竹直子)



「なるほど」と感じたことを全員で出し合った「なるほどメモ」を手に、「新聞づくりが楽しくなった」と言う上春別の2年生

「なるほどメモ」活用しよう

面白いこと ひと言に

2月27日、同校を訪ねた。この日の学習テーマは「こみ」。担任の吉川夏実教師が同校のごみ処理場を見学して学んだことを壁新聞にまとめようと提案した。風邪で1人休み、5人の生徒は「何を記事にしたいか分からない」と自信なき気。そこで今回は、新聞づくりの前のミーティングを実践してもらった。名付けて「なるほど会議」。

会議は「なるほどメモ」づくりで開始。ごみ処理場見学で「なるほど」と感じたことを、制限時間10分以内で各自メモに書き出し、記者が用意したA3判の台紙に貼り付けて行く作業だ。面白いことをひと言にまとめて書くのがルール。新聞で言う「見出し」の役割だ。記者からの助言は「悩まない。ピンときたことをどんどん書く」。

キーワード 見つけて

集まった30枚近いメモを、みんなで整理していくのが重要な作業だ。メモが貼られた台紙を見渡すと、

ほぼ全員が「Aランク」というキーワードを書き出していた。

別海町は、プラスチックとペットボトルをリサイクルするため、再分別などの中間処理を行っている。これが日本容器包装リサイクル協会（東京）から「Aランク」と認定された、と町の担当者から説明を受けていた。

「別海では、いいリサイクルが進められていると知りうれしかった」と佐藤亜勇君。「Aランク」を切り口にトップ記事をまとめることに全員一致が決まった。残るメモは「道路に再利用されているビンがある」「町民の分別が悪いと、ごみ処理場の人たちの作業が大変」などさまざま。これも「再利用」「町民のモラル」「ごみの分別方法」と三つのテーマに分類できた。



全員で書き出したメモを話し合いながらテーマ別に並べ替えていく。新聞づくりのものになる作業だ。

自分の生活 結び付け

続いて、各自の家庭のごみ処理で気付いたことをメモに書き出してもらった。「生ごみは、昔は牛の肥料に使っていた」「ごみ処理場の見学後から、ペットボトルは洗って資源ごみに出している」などと書かれた13枚のメモは、「再利用」「分別のルール」「意識の改善」と三つのグループに分けることができた。

町のごみ処理について整理したメモと見比べていた吉田樹里さんは「自分の暮らしと調べたことを組み合わせ、テーマ別の記事にできそう。白鳥可菜さんも「文を書くのは苦手だけど、みんなで意見を出し合いまとめる作業なら楽しい」と、「なるほどメモ」をもとに全員で壁新聞制作に取り組むことを約束してくれた。

みんなの力を結集した上春別中らしい新聞の完成が楽しみだ。



上春別中2年生が1年生の時に作った壁新聞

制服廃止や教室の網戸…地域色どんどん出して

記者が訪ねた日、上春別中の廊下に貼られていた壁新聞の面白さに驚いた。2年生が1年生だった時に制作したものだ。

「NO制服の意義」と題したトップ記事は、先生と生徒、保護者が5年がかりで話し合い、1995年に実現した制服廃止がテーマ。現在では制服に憧れる生徒や、「他校と一緒にいる生徒も多いことを指摘し、制服廃止の意義について問題提起している」。

「教室の網戸」という記事も目を引く。根室、釧路管内では珍しい、窓に網戸がついていることを取り上げ、10年前に教室にスズメバチが入ってきて大騒ぎになったことが理由だと紹介している。トップ記事と併せ、「私たちの学校は、そんな珍しい学校なのです」と結んでいる。

最近インターネットで大量の情報簡単に入手できる。このため中学生の制作する新聞でもネット情報の多用が目立つが、地域色豊かなその学校ならではの記事を自信を持ってどんどん書いてほしい。

新聞作りは、仲間と一緒に地域や学校生活を見直すきっかけになるはずだ。